

会 議 記 録 簿

記 録	職・氏名 社会教育課(施策担当) 主事 田中 杏奈		
件 名	令和6年度第2回恵庭市社会教育委員の会議		
日 時	令和6年11月14日(木) 13:30～15:00	会 場	市民会館(第2会議室)
出席者	恵庭市社会教育委員 松田、井上、高橋、平井、八木橋、中山、茶園 市教委 狩野部長 (社会教育課)黒氏課長、津田主査、佐々木主査、飛弾野主事、田中 (読書推進課)本間主査 (郷土資料館)高野館長	人 数	委員 7名 市教委 8名

1. 開会

2. 挨拶

恵庭市社会教育委員の会議 委員長 松田 一則

恵庭市教育委員会 教育部長 狩野 洋一

3. 議題

【報告事項】

(1) 「令和6年度社会教育事業報告(上半期)」について …【資料1】

社会教育課→読書推進課→郷土資料館 の順に、

事業写真をスクリーンに映しながら上半期の社会事業について報告を行った。

- ・社会教育課→恵庭子ども塾(おもしろ理科実験、食の体験ランド)、コミスクかふえ
少年の主張、ジュニアセミナー、長寿大学研修旅行
日曜趣味講座(コーヒー焙煎講座)、親子ふれあい教室(親子でクッキング)
みんなで楽しむピアノコンサート、公民館分館活動(子どもサマーキャンプ)
- ・読書推進課→夏のスペシャルおはなし会、BALLOONおはなし会、私家本 自分の本を作ろう
プレゼント企画、子ども司書体験講座、夏の作品発表会、フラワーサポーター
- ・郷土資料館→遺跡発掘調査成果展、カリンバ自然観察会、コレクション展 鈴蘭窯展
第11回カリンバまつり、企画展 西島松5遺跡出土品

〈質疑応答〉

①A委員

おもしろ理科実験の、子ども達の会場への移動手段は？

また、来場手段の指定はしているのか？

社会教育課

稀に子ども一人で来場することもあるが、ほとんどは保護者が連れてきている。

来場手段については指定していない。保険には毎回加入している。

②B委員

本の貸出によっての破れや未返却の対応に苦慮していると聞く。現在どのような状況か？

読書推進課

破れ等の傷みについては、原則同じ本を買って返却してもらっている。手に入りにくい本については、代わりの本を提示して、収めてもらっている。

未返却本については、電話やはがきで連絡しているが、返却してくれない方もいる。正確な数字は手

元に資料がないため不明。3年間返却されない本については除籍扱いとしている。

B委員

新規事業の私家本は、1年に1度の事業の予定か？ぜひ自分も作成してみたい。

読書推進課

単発の事業であるが、好評であれば次年度も開催したいと考えている。

その際はぜひ参加してもらいたい。

③A委員

カリンバまつりについて、最初の頃はカリンバの会という民間団体が主体でやっていたと記憶している。現在、この団体はどう関わっているのか？

郷土資料館

今回のカリンバまつりでは、直接的には関わっていない。しかし、春先のイベントや花植え、清掃やグッズ制作等で郷土資料館に関わっており、会自体は存続している。

A委員

できればそのような団体に声をかけて、何かの役割をしてもらったほうがいいと考える。

④C委員

長寿大学の年齢層は？

社会教育課

手元に資料がないため細かなものは提示できないが、全体の平均年齢は75.6歳だと記憶している。長寿大学自体は63歳から入学できるが、ここ10年は60代で入ってくる方はほぼいなく、70代で入ってくる方が多い。また、全体の7割は女性。最高齢は90代の方であるため、年齢層としては60代後半～90代である。

⑤D委員

図書館活動に関して、私自身の経験を踏まえて話すと、第1子が生まれたとき、孤独感を強く感じていた。そのときに参加した図書館事業で、コミュニケーションや親同士のつながりが生まれた。親が孤立しない良いツールとなっている。これからもこのようなイベントをぜひ継続していてもらいたい。

⑥E委員

小中学校への支援が、前年度より下がっていたり、利用がなかったりしているが、何か把握していることはあるか？学習指導要領の変更で、授業内容によっては個別利用の動きが活性化されると予想される。そのため、この動きを見える化できるようなスキームをぜひ検討してほしい。図書館が恵庭市の学習で利用されている、といったことがわかる様式を作ると良いと考える。

読書推進課

恵庭市の各学校には、常駐の司書が配置されている。司書と読書推進課で月1回ミーティングを行っているため、学習指導要領による学習のやり方の変化など、司書から聞き取り、対応していきたいと考えている。

社会教育課

総合学習の支援について、遠い学校についてはバスを使って図書館に来館していただいていたが、現在、プール学習でもバスを利用するようになった。そのため、支援の減少は読書推進課だけが原因ではなく、バスの運用方法の変化も要因の一つではないかと考える。

⑦C委員

子ども達の本を借りる頻度は上がっているのか？下がっているのか？

読書推進課

コロナ前までは上がっていたが、コロナ禍でガクッと下がってしまった。徐々に戻ってきてはいるが、十分な戻りとは言えない。特に中学生の戻りが低く、電子書籍等の普及により戻りにくくなっていると予想される。

(2) 大会・研修等参加報告

会場の様子をスクリーンに映しながら、参加者より感想・意見等を発表。

①第44回北海道市町村社会教育委員長等研修会（令和6年7月11日～12日）

B委員

1日目での基調講演では、自身の実践を元にした研究結果を「プレーパーク」や「子ども食堂」などの取組から地域支援の問題点と親子の関係性、子ども達のメンタルヘルスについて紹介。また東日本大震災での子ども支援の教訓、そしてヤヌシュ・コルチャックの実績と残した言葉から、子どもの本質や子どものこころのケアを見つめ直す機会となった。

2日目の分科会では、「子どもの居場所づくりと社会教育委員のかかわり」について議論した。

6市町村で議論し、各地域共通する2つの問題があることがわかった。

1つ目は「人口減少」「少子高齢化」が進んでいること。地域活性化を推進する中で子ども/への高齢者の支援が十分ではなく遅延している現状もある。

2つ目は社会教育の取組が地域の一角のみに浸透し地域間の共通理解に偏りが生じ全体の推進バランスを崩している。これは恵庭にも当てはまると考える。子どもの居場所には様々な形態があり、地域の特性や環境に影響する。委員ができることは、地域を丁寧に観察することであり、それによって必要なアイデアが生まれる。それを形にするためには実行力と継続するための根気が必要である

F委員

1日目の講演会は、自分が実践していることが学術的に見たらどうなのか、深く知ることができてよかった。また、恵庭には「プレーパーク」や「子ども食堂」もあるため、今あるものと結び付けて話を聞くことができた。

2日目の分科会では、それぞれの地域の課題について議論した。共通の課題があることはもちろん、都市の大きさによって課題が違っており、特に人材の話になると「人が多いところはいいよね。」といった声があげられ、恵庭は恵まれている方なんだなと思いながら話を聞いていた。

②第63回北海道社会教育研究大会 オホーツク大会（令和6年11月1日～2日）

社会教育課より、1日目の特別講演、パネルディスカッション、交流会、2日目の分科会について概要説明。

B委員

2日目の分科会では、第3分科会の「シニア世代に社会教育事業に参加してもらうには」に参加。シニア世代にはシニア世代の役割があることを知ってほしい、それを伝えていくことが大事ということでまとまった。

また全体を通して、5年ぶりの対面開催ということもあり、全道の社会教育委員の熱量を感じることができた。収穫の多い大会だった。

C委員

分科会では、第1分科会の「地域コミュニティと社会教育委員のかかわり」に参加。各地域から委員が集まっていたが、皆さん共通していた課題は「少子高齢化」である。人そのものがないといった声も聞こえた。恵庭は恵まれていると感じた。

また、特別講演の82歳でアプリゲームを開発した89歳の講師の話を聞いて、自分も頑張らなくてはいと感じた。

E委員

特別講演はすごく感動した。勇気ももらえた。先ほどの長寿大学の話もあったが、後期高齢者がどう地域で活躍できるか考えることがあるが、そこを打ち破る話を聞くことができた。

また、大会全体を通して思ったことは、オホーツクはこんなもんじゃないということ。「足りなかったら私たちがやる」といった考えが社会教育委員に浸透している。そこから学べることもある。色ん

なことを自分事にできる仕掛けをオホーツクはやっている。

また、私は第1分科会に参加したが、進行がいらぬほど議論が盛り上がった。それぞれ問題意識や取組を持っており、その意見交換に3時間使いたいと思うほどだった。

【協議事項】

(1) 第6期恵庭市生涯学習基本計画策定に向けて … 【資料2】

社会教育課より資料2を用いて第6期恵庭市生涯学習基本計画策定に向けてのスケジュールを説明。

4. その他・意見交換

各担当より、今後予定されているイベントについて説明。

5. 閉会



以上